

新規 道民カレッジ称号取得者一覧

(平成23年9月1日～平成24年2月29日)
(敬称略 本人から承諾を得ている方を掲載しています。)

- 学長奨励賞 (5000単位取得) ●
榎本 聡子 (札幌市)

- 学長奨励賞 (3000単位取得) ●
佐々尾雅志 (札幌市)

- 学長奨励賞 (2000単位取得) ●
柿倉桂三郎 (北見市)

- 学長奨励賞 (1000単位取得) ●
山田 芳二 (札幌市) 三浦 清富 (北見市)
金田 英男 (帯広市) 久保田法順 (札幌市)

- 博 士 (300単位取得) ●
小橋 忠男 (名寄市・教) 石川 弥一 (札幌市・環)
牧田 武治 (札幌市・ほ) 橋詰 正和 (札幌市・環)
落合 俊忠 (札幌市・ほ/教) 熊谷 ゆき (札幌市・ほ)
逢坂 利昭 (札幌市・健) 三谷 馨 (札幌市・教)
坂本 繁光 (音更町・環/教) 高澤 英治 (札幌市・能)
宇賀 邦久 (札幌市・環) 秋元 博子 (札幌市・教)

- 修 士 (200単位取得) ●
磯部 光宏 (札幌市・ほ/環) 平瀬 春吉 (岩見沢市・ほ)
大内 和也 (札幌市・能) 秋元 博子 (札幌市・能)
阪 正二 (札幌市・能) 金田 英男 (帯広市・教)
落合 俊忠 (札幌市・ほ/教) 藤内 英夫 (札幌市・ほ)
三浦 信江 (札幌市・教) 高澤 英治 (札幌市・能)
宇賀 邦久 (札幌市・環) 鈴木 努 (上富良野町・健)
山崎 繁光 (室蘭市・教)

- 学 士 (100単位取得) ●
磯部 光宏 (札幌市・ほ/能/環) 石川 弥一 (札幌市・健/教)
熊谷 ゆき (札幌市・環) 牧田 武治 (札幌市・教)
青木 秀子 (札幌市・ほ) 酒井 清美 (湧別町・教)
大崎喜代志 (遠軽町・ほ/教) 天池 一宣 (中富良野町・ほ)
三上 勝 (江別市・ほ) 逢坂 利昭 (札幌市・健)
坂本 繁光 (音更町・健) 三浦アイ子 (札幌市・教)
吉谷 健一 (音更町・能) 今村 順子 (札幌市・教)
山崎 繁光 (室蘭市・教) 上口たみ子 (池田町・環)
松田 幸雄 (帯広市・能)

田中 裕史 (帯広市)

磯部 光宏 (札幌市)
大崎喜代志 (遠軽町)

佐藤 文彦 (帯広市・環)
三浦 清富 (北見市・ほ)
大崎喜代志 (遠軽町・ほ/教)
山田 芳二 (札幌市・環)
藪谷 義雄 (帯広市・能)
吉谷 健一 (音更町・教)
松尾 睦美 (札幌市・環)

小橋 忠男 (名寄市・教)
塚田 洋子 (音更町・環/教)
大崎喜代志 (遠軽町・ほ/教)
田中 豊實 (音更町・能)
逢坂 利昭 (札幌市・健)
中西 紀悦 (札幌市・教)
小敷澤幸子 (北広島市・能)

堀北 真吾 (札幌市・教)
秋元 博子 (札幌市・能)
大内 和也 (札幌市・能)
山石 純男 (札幌市・教)
落合 俊忠 (札幌市・ほ/教)
太田 順治 (札幌市・ほ)
高澤 英治 (札幌市・能)
白山 正 (札幌市・ほ)
笹塚 篤 (札幌市・環)

※称号取得の方法や手続きに関するお問い合わせは、下記の道民カレッジ事務局まで、ご連絡ください。
なお、道民カレッジのホームページでは、称号取得のモデルプランを見ることができます。
(注) ほ：ほっかいどう学 能：能力開発 環：環境生活 健：健康・スポーツ 教：教養

称号取得者等

学 士	修 士	博 士	学長奨励賞				
			1000単位	2000単位	3000単位	4000単位	5000単位
506人	348人	272人	49人	11人	4人	2人	1人

カレッジだより Vol.21

平成24年3月発行
編集・発行 道民カレッジ事務局〔(財)北海道生涯学習協会〕
〒060-0002
札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7ビル9階
TEL (011) 204-5780 FAX (011) 281-6664
URL <http://manabi.pref.hokkaido.jp/hsgk/college/>
Eメール college@manabi.pref.hokkaido.jp

道民カレッジ事務局から

1. 道民カレッジ生で住所変更等があった時は、ご面倒でも事務局あてお知らせください。
2. 道央圏のカレッジ生による「道民カレッジ友志の会」が結成され、学びの広場(かでの2・7 9F)「交流コーナー」を拠点にサークル活動を進めています。多くのサークルの登録をお願いします。



道民カレッジロゴマーク
愛称「マナボー」

college news

カレッジだより

～学びから 夢が生まれる道民カレッジ～

2012 Mar.

vol. 21

独学の生涯学習から道民カレッジへ

「ほっかいどう学」修士
岩見沢市 平瀬 春吉



現役の頃、独学で試行錯誤を重ね、音楽仲間の後押しもあって作詞、作曲で有線の通信カラオケに一曲参入を果たし、学習した足跡が残せました。関係者から有益なアドバイスをいただいて、身をもって覚えたことは、「情熱をもって本音で当たり、飾らないこと」です。

平成8年、文部省認定の生涯学習指導者養成講座によって一級インストラクター(分野・生涯学習)を得て、市教育委員会の依頼で講師を経験し、更に生涯学習コーディネーター研修で成績優秀賞をいただいて、財団法人 社会通信教育協会の認定を受けました。

「道民カレッジ受講生」になったのは本屋で見た、ほっかいどう学検定の公式問題集からの合格がきっかけです。学びたい意思が入学資格で何の制約もなく、一時間一単位で最初の100単位で学士、称号は知事名となっている一遍、称号をもらって見ようと単純な動機でした。積極的に受講すると1年程で100単位になった。受講意欲と継続性を併せもった企画であり、講座の数が特段に幅広い内容で、学びたい気持がそそられて、岩見沢から高速バスで月3回は札幌へ足が向いている。今年は「道民カレッジモニター」ほかに「道民カレッジ友志の会」にも入っています。

ほっかいどう学検定合格者のつどいから、「ほっかいどう学を学ぶ会」が「歴史・文化」と「自然環境」の二つ、両方に入会し研修ツアーにも参加して、楽しく見聞を広めているところです。昨年11月に「研究発表」の機会をいただいた。発表資料に加えて遺跡調査検分図を作成、それが市史資料室で保存、管理されることになった。余暇活用の生涯学習が自他共に、意義ある結果を得たものと自負しております。これからも北海道開拓の汗と涙の物語に関心があり、学んでいきたいと思えます。

日本是世界で例を見ない早さで、高齢化が進んでいると言う。高齢化社会の活性化が問われ益々、生涯学習の重要性が目されるのではないだろうか。高齢期の充実、健康に留意しながら、生涯学習に取り組むこと、と言っても過言ではないと思えます。学歴や経歴、年齢を捨てて物事に挑む精神が生涯学習であり、“若さ”である、と強調したいのです。

生涯学習に因んだ私の好きな、相田みつをの言葉“一生勉強 一生青春”人生の心得を言い当てていると思えますがいかがでしょう。孔子の言葉“温故知新”昔をよく学び、そこから新しい知識や考え方を発見すること、ここに引用します。

いくつになっても夢と感動を求め、生涯学習志向で生きることの良さを感じながら進みましょう。



出前講座 (厚沢部町)



出前講座 (清水町)



出前講座 (斜里町)

「ほっかいどう学」出前講座

「地場産業を活かした交流のまちづくり」(紋別市)

平成23年10月15日(土)「ほっかいどう学」出前講座が紋別市立オホーツク青年の家を会場に開催されました。「地場産業を活かした交流のまちづくり～森林検証で地域活性化を！」をテーマに、講演、事例発表、フィールドワークを実施し、市内外から参加した54名が「まちづくり」について学びました。



講演は、地方自治体の長、宮川良一紋別市長が自ら講師を務めました。「第1次産業が元気になればまちも元気になる」という理念のもと、森林認証制度を活用した官民一体の取り組みの大切さと、付加価値をつけることで林業の飛躍を期待する市長の語りに、参加者は皆熱心に聞き入っていました。

事例発表では、紋別市農政林務課 徳正修一参事が東京都港区との認証林利用に関わる交流やANAとの森づくり活動の連携、地元での認証材活用の取り組みを紹介しました。

午後のフィールドワークでは認証材を用いた牛舎や住宅などを見学し、実際に木の温かさに触れるとともに、講演や事例発表での説明と結びつけることで学びを深めることができました。参加者は、「この取り組みをもっと多くの人に知らせたい」「自分も力になりたい」と、地域の地場産業の魅力を再認識するとともに、より拡がりを持った取り組みとすることへの認識を新にしていました。

紋別市では、今回の出前講座の成果を活かし、次回は水産加工業の面から「地場産業を活かしたまちづくり」の学習を深めていくことを予定しています。

称号取得者等「学習成果活用セミナー」開催

テーマ「学んだ知識を生かしていかに社会参加を図るか」

セミナーⅩⅢ

- 期 日 平成23年10月27日(木)
- 会 場 「かでる2・7」1040会議室
- 内 容 (1) 実践発表
① 発表者 北見市 三浦 清富 氏
② 発表者 鹿部町 石岡 六美 氏
(2) 講義・グループワーク・全体発表
テ ー マ 「地域があなたを必要としている」
講師 道立生涯学習推進センター
主査 阿部 隆之 氏

セミナーⅩⅣ

- 期 日 平成24年2月13日(月)
- 会 場 「かでる2・7」1040会議室
- 内 容 (1) 講義
テ ー マ 「地域課題に対応した講座づくりの実際」
講師 北翔大学
教授 谷川 松芳 氏
(2) グループワーク・全体発表
テ ー マ 「地域課題に対応した講座の企画」

「道民カレッジの称号取得者が集い、学習の成果を生かして自らのスキルをスキルアップするとともに、地域や人づくりのための実践的な研修を行い、地域活動へ踏み出す契機とする。」を趣旨に、今年度は上記のとおり2回開催しました。

1回目のセミナーⅩⅢでは、実践発表のあと、グループワークを行い、地域で学習成果をどう生かしていくか、活発な話し合いがされました。(学校では、町内会では、地域では)

2回目のセミナーⅩⅣでは、講義のあと、グループ毎に実際に地域課題に対応した講座を企画しました。参加された方は、1回目のセミナーを受けて実際に地域展開する講座の案を持参して披露された方もいました。(ふるさと塾、法律問題、地震対策、街づくり等)



特集「道民カレッジ」モニターアンケート集計

「道民カレッジ」モニターの要項を改正しました！

「道民カレッジ」モニターについては、称号取得者を中心にご協力をいただいております。しかし、地域に片寄りが生じたり、毎年同じ方からご意見を頂くことになることから、広く意見をお聞きするため、要項を改正し、称号取得しているカレッジ生から50名、称号を取得していないカレッジ生から100名を無作為に抽出して、1年ごとにモニターになっていただくこととしました。昨年度までとは対象が変わっているために、数字の変動が大きい部分もありますが、今年度のアンケート結果の主なものは以下のとおりです。(抜すい)

調査の概要

1. 調査対象

道民カレッジ生150名

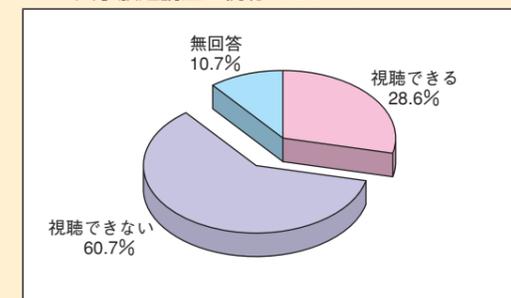
2. 調査期間

平成23年11月～平成23年12月

3. 回答数

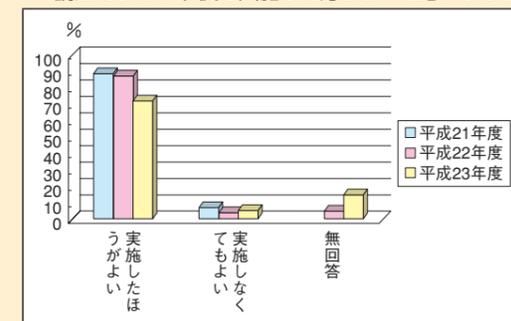
回答数 56名(回答率37.3%)

Q. インターネット動画サイト(ほっかいどう学BB)で大学放送講座を視聴できますか。



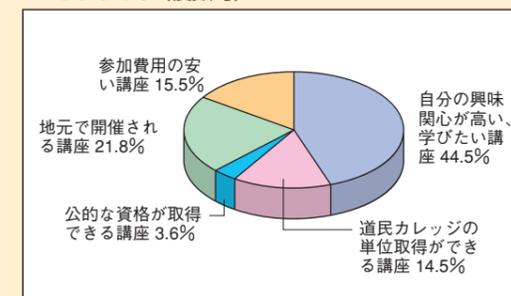
「視聴できない」が多いのは、「ほっかいどう学BB」の視聴期間が限られていたので、1年間視聴できるよう延長した。

Q. 出前講座は地域課題解決のための地域・人づくり講座ですが、今後も実施の方がよいと思いますか。



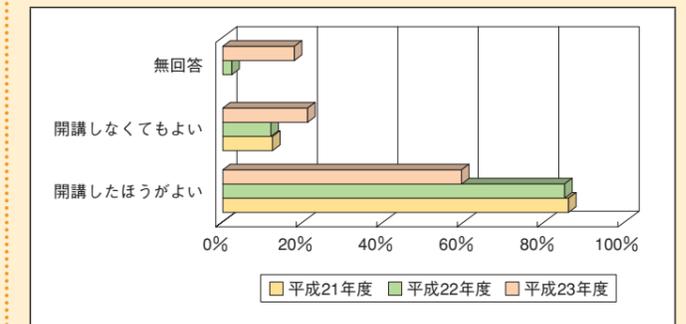
出前講座は、約8割が継続を望んでおり、身近な地域での開催を希望している方が多い。

Q. 講座を受講するとき、何を基準として講座を選択しますか。(複数可)



「自分の興味関心が高い、学びたい講座」を基準として講座を選択する傾向が強い。

Q. 今後も大学放送講座を開講したほうがよいと思いますか。



開講を6割の人が望んでおり、受講者はレポート作成にも積極的に取り組んでいる。

Q. あなたは称号取得制度についてどう思いますか。



称号取得を励みや目標として学習に取り組むカレッジ生も多い。

「モニターの主な意見」

- 大学放送講座は、テーマを系統的に学べるとともに、ビデオ録画することで、いつでも学習できる。
- 大学放送講座は、レポートを書くという困難はあるが、問題を把握し、まとめる力を養える。
- 出前講座は、開催地が中央や比較的大きい市町に多く、地方の人が学べるためにも、多くの町村で開催して欲しい。
- 出前講座は、地域の切実な問題点を選ぶ必要がある。参加したいテーマだと思っても遠くまでは経費がかかって参加できない。
- 称号取得者制度は、学習意欲が増す。在学期間が限られていないので、自分のペースで生涯学ぶことができる。
- 称号取得者制度は、意欲的に生涯学習に取り組んだ証になる。目安を持って進むことが、学習の持続となり、それが活力となる。